

2019年度 第2回11月阪大本番レベル模試地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。

② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。

② 下線の付け忘れは1点減点。

③ 指定用語不使用は1点減点。

④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。

② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。

③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。

④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) _____部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。
- 5) [指定語句] は、文中のどこかで使用していれば減点しない。

(I) 配点 60点

問1 25点

[指定語句] 浮稲 乾季稲作 ドイモイ 棚田 (下線不要)

ベトナムはメコン川、タイはチャオプラヤ川、ミャンマーはエーヤワディー川の流域の低湿地で、古くから雨季の浮稲栽培が見られる。近年は緑の革命による灌漑の整備で乾季稲作が普及し、二期作も拡大した。特に華僑が米貿易を主導するタイ、ドイモイによる市場経済の導入で生産性が向上したベトナムは、世界有数の米の輸出国となった。一方、インドネシアとフィリピンは米需要が大きい。島国で稲作に不向きな急峻な山地が多く、人口稠密なジャワ島、バリ島、ルソン島等の斜面には多くの棚田が築かれた。それでも米は不足し、輸入で補われる。

【加点ポイント】

i) 浮稲について (8点)

① 古くから浮稲の栽培が行われてきた／かつては浮稲栽培が主流であった →2点

② (①について)

- ・ 雨季を利用する／雨が多い／洪水を利用する／天水農業である
- ・ 水位の上昇につれて生長(成長)する
- ・ ベトナム／タイ／ミャンマーなどで盛んであった
- ・ メコン川流域
- ・ チャオプラヤ川流域
- ・ エーヤワディー川／イラワジ川流域
- ・ 低湿地／デルタで栽培される
- ・ 無肥料／無農薬／粗放的
- ・ 低収量／生産性が低い

1つ1点
6点まで

ii) 乾季稲作について (6点)

① 近年は乾季稲作が行われている / (浮稲から) 乾季稲作へ転換した →2点

② (①について)

- ・緑の革命による
 - ・灌漑施設の整備による / 灌漑農業である
 - ・(浮稲より) 生産性が高い / 高収量
 - ・二期作も行われる
 - ・近年は機械化も進んでいる
- } 1つ2点
4点まで

iii) ベトナム・タイ・ミャンマーの稲作と米貿易について (6点)

① ベトナムは米の輸出が多い / ベトナムは米の輸出国である

② (①の背景として) ドイモイ / ドイモイ政策

③ (②の内容として) 市場経済の導入 / 市場開放

④ (②により) 生産性が向上 / 生産意欲が向上

⑤ タイは米の輸出が多い / タイは米の輸出国である

⑥ タイは華僑 (華人 / 中国系) が米貿易を主導する

⑦ ミャンマーは米を自給できている

} 1つ1点
6点まで

iv) インドネシア・フィリピンの稲作と米貿易について (5点)

① インドネシアは米を輸入している / インドネシアは米の輸入国である →1点

② フィリピンは米を輸入している / フィリピンは米の輸入国である →1点

③ (①②の背景として) (※どちらか一方の国の事情として書かれていても可)

- ・人口が多い / 米需要が大きい
 - ・平地が少ない / 山地が多い / 島国である
 - ・棚田で栽培される / 棚田での栽培は効率が悪い
 - ・ジャワ島 / バリ島 / ルソン島 (に棚田が多い)
- } 1つ1点
3点まで

問2 15点

[指定語句] ポルダール 青いバナナ 園芸農業 (下線不要)

浅海などを干拓して造成されたポルダールが広がるが、土壌の塩分濃度が高いため穀物栽培には向かず、牧草地とされた。そのため、農業生産額に占める酪製品や家畜・肉類の割合が大きい。また、交通網の発達した都市化地帯である青いバナナに位置するため、都市に農産物を供給する園芸農業も盛んであり、花・植物や野菜の割合も大きい。

【加点ポイント】

i) 酪製品や家畜・肉類について (7点)

- ① 酪製品の割合が大きい／酪製品の生産が多い →1点
- ② 家畜・肉類の割合が大きい／家畜・肉類の生産が多い →1点
- ③ (①②の背景として) ポルダールが広がる／ポルダールで酪農(畜産業)が発達した →1点
- ④ (③について) 干拓地である →2点 ※「埋立地」は不可
- ⑤ (③について) 穀物栽培に向かない／牧草地にしている →2点

ii) 花・植物や野菜について (8点)

- ① 花・植物の割合が大きい／花・植物の生産が多い →1点
- ② 野菜の割合が大きい／野菜の生産が多い →1点
- ③ (①②の背景として) 園芸農業が盛ん →1点
- ④ (③について) 都市に農産物を供給する／都市を市場とする／都市に出荷する →1点
- ⑤ (③について) 青いバナナに位置する／青いバナナに農産物を供給する →2点
- ⑥ (⑤について) ・交通網が発達
 - ・EU域内で関税がかからない
 - ・人口が多い／工業が発達した地域が連なる／都市化地帯である→いずれかで 2点

問3 20点

国の東部を走るアンデス山脈は新期造山帯に属し、火山活動が活発である。よって、地表近くに上昇したマグマが地下水に冷やされて銅鉱床が形成され、銅と銅鉱石が主要輸出品となった。南部は波が穏やかで水深の深いフィヨルドが多く、高緯度で水温も低いため、アンチョビー漁やさけ・ます類の養殖業が発達し、魚介類の輸出額も大きい。果実も重要な輸出品であり、地中海性気候が分布する中部で、夏の乾燥に耐えるブドウが栽培される。

【加点ポイント】

i) 銅・銅鉱石について (8点)

- ① 銅と銅鉱石が主要輸出品である／銅と銅鉱石が輸出の約半分を占める
／銅と銅鉱石が輸出の第1, 第2位である／銅と銅鉱石に国の経済が依存している
→2点
- ② (①の自然条件として) 新期造山帯に位置している →2点
- ③ (②について) 火山活動が活発／マグマが地表近くまで上昇する →2点
- ④ (②について) マグマが冷やされ銅鉱床が形成される
／地表近くまでマグマが銅を運ぶ →2点

ii) 魚介類について (8点)

- ① (主な漁獲魚種として) アンチョビー →1点
- ② (漁業の特徴として) 養殖業を発達させた／養殖が盛ん →2点
- ③ (養殖の魚種として) さけ／ます →1点
- ④ (漁業発達の自然条件として)
 - ・ペルー海流／寒流／湧昇流／低い水温 で好漁場となる
 - ・フィヨルドが発達
 - ・フィヨルドは波が穏やか／フィヨルドは水深が深い } 1つ2点
4点まで

iii) 果実について (4点)

- ① (主な果実として) ブドウ／ぶどう →2点
- ② (②の自然条件として) 地中海性気候が分布する →2点

(II) 配点 40 点

問1 20 点

インドとパキスタンは一つのイギリス植民地であったが、宗教の違いから独立時に分裂し、支配層がヒンドゥー教徒のカシミール地方はインドへの帰属を決めた。しかし、住民の大半を占めるムスリムがパキスタンへの帰属を求めて反発し、以降、二国の対立が続く。スリランカもイギリス領であったが、独立後、多数派で仏教徒のシンハラ人が自民族の優遇政策を導入したため、少数派でヒンドゥー教徒のタミル人による独立運動が長らく続いた。

【加点ポイント】

i) インドとパキスタンの対立について (8 点)

- ① (対立の契機として) イギリスからの独立時
／イギリス植民地からの分離独立の時 →2 点
- ② (宗教の違いとして) 「支配層／藩王」 は 「ヒンドゥー教」 →2 点
- ③ (宗教の違いとして) 「住民」 は 「イスラム教／ムスリム」 →2 点
- ④ (帰属について) インドの帰属となった／インドの一部と決められた →2 点

ii) スリランカについて (12 点)

- ① (一方の民族について)
 - ・シンハラ人／シンハリ人 →2 点 (※「～族」でも可)
 - ・仏教 →2 点
 - ・多数派 →1 点
- ② (もう一方の民族について)
 - ・タミル人／タミル族 →2 点
 - ・ヒンドゥー教 →2 点
 - ・少数派 →1 点
- ③ (対立の契機として) シンハラ人が自民族の優遇政策を導入した
／シンハラ語のみを公用語とした →2 点

問2 20点

[指定語句] 外国企業 ジャーティ 身分差別 (下線不要)

政府が経済に強く介入する混合経済から、自由な経済活動が可能な市場経済に転換したことで、インドには外国企業が多数進出し、ICT、自動車等の産業が急成長した。ヒन्दゥー教徒の社会は、職業を世襲するジャーティと呼ばれる社会集団に細分化され、集団間には差別に結びつく上下関係が存在するが、ICT・自動車関連等の新しい職業はそれとは無縁である。よって、近年は、高収入を得つつ、身分差別と無関係な生活を送る人々が増えている。

【加点ポイント】

i) 産業経済の変化について (8点)

- ① 自由な経済活動が可能になった／国営企業中心から民間企業中心へと変化した
／経済活動への国（政府）の介入が少なくなった →3点
- ② (①により) 外国企業が多数進出した →2点
- ③ (②について)
＜業種＞ ICT／コンピューター関連／自動車／ソフトウェア／コールセンター
＜背景＞ 英語が話せる／人件費が安い／理数系の教育が充実している
→ いずれかで3点

ii) インド社会への影響について (12点)

- ① (インド社会は) ジャーティと呼ばれる社会集団がある →2点
- ② (①では) 職業が世襲される／職業選択の自由がない →3点
- ③ (①は) 身分差別がある／集団間で身分の差がある →2点
- ④ 新しい職業はジャーティとは無縁である
／ICTなどはジャーティにはない職種である →2点
- ⑤ (④により) 身分差別と無関係な生活を送る人々が増えている
／身分差別の解消が期待される →3点
(※「身分差別が解消された」では加点しない)